

# 真鶴町教育ビジョン

## はじめに

真鶴町の教育の基本理念には「教育は人づくり、人づくりはまちづくり、まちの未来づくり、そして、すべての基盤は互いの信頼」と記されています。この一行に、真鶴町の教育のすべての出発点があります。人を育てることが、まちを育て、まちの未来を育てる。その営みは、人と人、家庭と学校、地域と行政、子どもと大人、世代間に「互いを信じあう関係」があって始めて立ち上がります。

学校の中だけでなく、家庭で、地域で、海辺で、山で、祭りの場で——真鶴のすべてが子どもの学びの場であり、すべての大人も生涯、学ぶことを楽しみ続ける。そんなまちをつくりたい。

本ビジョンは、真鶴町のすべての子どもが、自分自身と未来・社会のつくり手として歩み出していけるよう、まちのみなさまと共に挑戦するための指針です。

## 教育ビジョン策定にあたって

2030年に開校予定の小中一貫の義務教育学校は、単に校舎の建て替えではありません。新しい建築（ハード）の良さを生かしながら、その中でどのような「教育の中身（ソフト）」を育てるか。それこそが本質です。そして大切なのは、地域の宝である子どもたちを育てる学校教育の充実と、真鶴に住む人々の暮らしを豊かにする社会教育の充実を共に図ること。その両輪で、子どもも大人も学ぶまちをつくれます。

また、学びは小学校から始まるものではありません。乳幼児期の育ちこそがすべての土台です。私たちは2030年において、0歳から15歳までの学びを一つながりに設計しなおす起点と捉え、就学前の育ちと学校の学びを切れ目なくつないでいきます。

本ビジョンは、白紙に新しく描かれたものではなく、「第5次真鶴町総合計画」、町長と教育委員会が定める「教育大綱」、そして「真鶴町小中一貫教育校建設基本構想・基本計画」という枠組みの上に位置づけられます。

## 真鶴の挑戦

2026年5月、中央教育審議会は次期学習指導要領に向けた論点整理を示しました。その方向性は、はっきりしています。これからの学校は、全員に同じ内容を同じペースで履修させる場所から、一人ひとりの多様性を包摂しながら、深い学び・探究・協働・自己調整を実現する場所へと転換していく。真鶴町が挑もうとしているのは、まさにこの転換です。また三つの柱として、「深い学びの具現化(Excellence)」、「多様性の包摂(Equity)」、「教師と子どもに余白を生む実現可能性(Feasibility)」と示され、国のめざす子ども像を「自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手」と描いています(論点整理の途中であり、文言は今後変わる可能性があります)。

本ビジョンはこの国の方向性と深く響き合います。独自路線でも先走りでもなく、国の方向性と深く響き合いながら真鶴町の風土と暮らしのなかで、一歩先んじて具体化する挑戦です。

真鶴町が子どもに願うのは、多様性を尊重できる子、関わる力をもった子、創り出す力をもった子、発信する力をもった子、心の豊かな子、ふるさとを大切にする子の6つの姿です。これらを通して、自分を高め、他者とつながり、自分と向き合うことができることをめざします。これらは別々のものではなく一人の子どもの中で響き合いながら育っていくもの。私たちはこれを教育目標「より良い人生を切り拓き、主体的に学び続ける真鶴っ子の育成」として掲げています。その先に、子どもたち自身が「私（たち）は自分自身と未来・社会のつくり手なのだ」という確かな自信とふるさとへの誇りに満ちた姿があります。

本ビジョンを、行政文書としてだけでなく、まちのみなさまと共有し、加筆修正をしながら共に挑戦するための公式な「みんなで指さし、めざしていく道しるべ」として位置づけます。私たちは2030年に向けて、以下の4つのビジョンと17のアクションで具体化していきます。

この挑戦は、子どもたちの参画、日々子どもと向き合う先生方、そして子どもの育ちを願う地域の人々の営みがあって、はじめて前に進みます。何かに迷ったら、子どもこそがつくり手である、ということに立ち返りたい。

このビジョンを実現するため、互いを信じ合いながら共に愚直に歩いていきましょう。

2026（令和8）年8月 岩瀬 直樹

## 4つのビジョンとアクション

| ビジョン                                                                                                                                                                 | アクション       | 具体的な内容・願い                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Vision 1</b><br><br><b>全ての子どもの居場所をつくる</b><br><br>子どもは誰一人として同じということではなく、多様な背景や特性、個性があるからこそおもしろい。「学校」が心身ともに安心、安全であり、子どもが自分らしくいられる場であるように、時間、空間、関係性といった学習環境をデザインします。 | #個性や多様性の包摂  | 「特別な配慮」ではなく、「一人ひとりの違いがあって当たり前。その違いが豊かさである」という前提にたち、不登校・インクルーシブ* <sup>1</sup> ・国籍、LGBTQ* <sup>2</sup> 、障がいの有無、特別な才能をもつ子等どんな背景や特性をもつ子どもも、自分らしくいられる園・学校をめざします。  |
|                                                                                                                                                                      | #学びの多様化     | 教室の中だけが学びの場ではなく、教育支援センター及び校内支援室との連携といった、子どもの居場所を多様に捉えることを通して、子ども一人ひとりが自分に合った学びの場と方法を選ぶことを大切にします。                                                             |
|                                                                                                                                                                      | #安心、安全な学習環境 | 物理的な安全管理の徹底に加え、子どもたちが心理的に安心して過ごせる環境づくりのために、学習環境デザインと子ども同士や子どもと先生の関係性の両面から整えます。                                                                               |
|                                                                                                                                                                      | #余 白        | 学校生活の時間・空間・関係性の余白をつくり、子どもたちが自己を見つめたり、自分が居心地の良い場所を見出したり、他者との関わりを通して自分に気づいたりすることを大切にします。先生にとっても柔軟な教育課程、自身のウェルビーイング* <sup>3</sup> 、互いの実践を語り合い専門性を高められる余白をつくります。 |
| <b>Vision 2</b><br><br><b>自分で考える、決める、みんなで学校をつくる</b>                                                                                                                  | #子どもの参画     | 子ども自らが自分や自分たちの生活をつくる、学びをつくる、園・学校をつくる主体であるということを中心に置きます。学校では、2030年開校までの合同生活についても子どもと一緒に考え、学校をつくっていきます。                                                        |

|                                                                                                              |                          |                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>子どもは、教えられるだけの存在ではなく、自ら学び、自ら学校をつくる主体ととらえます。一人ひとりが「私たちは、自分自身と社会のつくり手なのだ」という確かな自信をもって、15年間を歩いていく姿をめざします。</p> | <p>#環境を生かした学び</p>        | <p>環境（物的・人的・自然）を、子どもの内面に働きかける存在として捉えます。余白のある環境構成は、動的な変化を可能にし、子どもの「今」に応じて机の配置や用意する道具を柔軟に変えることができます。時には安心できる居場所として、時には好奇心をくすぐる刺激として、子どもを取り巻く環境を整えます。</p>                                     |
|                                                                                                              | <p>#学びの連続性と異年齢の遊びと学び</p> | <p>15年間で成長実感できるカリキュラム(幼(保)小中がつながる学び)について、2030年度4-3-2制<sup>*4</sup>実施に向けて、教科担任制<sup>*5</sup>などを試行していきます。異年齢が自然とまざる遊びの時間を大切にして、異年齢での出会いから生まれる気づき、ケアし合う関係性を通した子ども同士の育ち合う力を信じています。</p>         |
|                                                                                                              | <p>#個別・協働の学びと探究</p>      | <p>園での一人ひとりが探索する遊びは、学校での興味・関心や問いを追求できる学びに繋がっていきます。個人探究とテーマ探究の2つがその柱です。これらを通して情報活用能力の育成や探究に役立つスキルを習得・活用していきます。同じ内容を同じペースで履修する学びから、自分のペースで、自分に合った学び方を選択することができるような、子ども同士が学び合う形へ転換していきます。</p> |
|                                                                                                              | <p>#ことばが生まれ、世界とつながる</p>  | <p>絵本やお話の世界からことばに出会い、読書を通して様々な他者に出会い世界を広げます。興味関心を他者に伝えることばを育み、そうして外国語教育や友好都市交流を通して、子どもたちが自分のことばで世界と関わる経験を重ねます。真鶴から世界へ開かれた学びの場に挑戦します。</p>                                                   |
| <p><b>Vision 3</b></p> <p><b>まちと共に育つ</b></p> <p>子どもは家庭、学校、地域と関わりながら暮らしています</p>                               | <p>#地域とつくる、まなづる未来学</p>   | <p>園児の時から地域のヒト・モノ・コトとの出会いを存分に味わい、将来的に地域を担う人材の育成につなげる学びを大切にします。さらに学校では生活科、教科を融合した総合的な学習の時間に発展させていきます。</p>                                                                                   |

|                                                                                                                                                   |                     |                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>す。学校では「まなづる未来学」を地域と共につくり、家庭と連携しながら子どもの学び・育ちを地域の大人も一緒に支えます。</p>                                                                                 | <p># 共創空間の推進</p>    | <p>新校舎で計画されている学校・公共図書館の融合をはじめとした学校と社会教育の物理的な共創空間づくりのみならず、真鶴の各地（社会教育施設や民間の場）で子どもも大人も学ぶ「学校」になる取り組みを推進します。</p>                              |
|                                                                                                                                                   | <p># 地域とつながる</p>    | <p>学校づくりの様子を保護者や地域に発信することで、地域と学校が協働する関係性であることに向けてはたらいしていきます。開校推進委員会の様子は通信（広報やウェブなど）や共創ワークショップの開催をはじめ、日頃のコミュニケーションを大切にします。</p>            |
|                                                                                                                                                   | <p># 家庭との連携</p>     | <p>小さな町の強みを生かして「顔が見える、声が届く」コミュニケーションを大切にします。義務教育学校開校に向けた情報を発信したり、対話の機会を通して、子どもの育ち、教育の力について共に考えたりしていきます。</p>                              |
| <p><b>Vision 4</b></p> <p><b>先生のワクワクを支える<br/>大人も最高に楽しむ</b></p> <p>子どもたちの学びをつくる先生が日々の実践を通して子どもの姿を喜び合えるように、教育委員会でははたらく環境、学ぶ仕組み、授業づくりの伴走に取り組みます。</p> | <p># 学び続ける先生と共に</p> | <p>園・校内研究や研修、学び共創室主催による先生を対象としたワークショップや勉強会の開催、他の自治体等と連携しながら、先生が交流を通して学び合っていく場をつくり先生の成長を支えます。</p>                                         |
|                                                                                                                                                   | <p># 先生のはたらく環境</p>  | <p>小中合同校舎になることを生かし、教職員の相互乗り入れを活性化させると同時に、業務整理を学校全体で行い余白をつくり、専門性を向上するための研修づくりを学校と学び共創室が連携して取り組みます。</p>                                    |
|                                                                                                                                                   | <p># 同僚性を大切に組織</p>  | <p>安心できる場づくり、対話による園・学校運営を通して同僚性を育てていきます。これらの先生方を支える教育委員会としてのはたらきを模索しながら組織づくりに挑戦していきます。</p>                                               |
|                                                                                                                                                   | <p># 学び共創室の運営</p>   | <p>真鶴町学び共創室<sup>*6</sup>は園・学校と地域をむすび、先生の授業づくり伴走支援、学校づくりのサポート、情報発信・連携のためのワークショップの企画・運営、開校推進委員会の事務局を担います。子どもも、大人も、町の教育について考え、対話していきます。</p> |

- ＊1 **インクルーシブ** 「すべてを包み込む」という意味の言葉。違いを排除せず、多様な個性が関わり合うことで、集団や社会全体の学びと関係性が豊かに編み直されていくという考え方。
- ＊2 **LGBTQ** レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア／クエスチュニングの頭文字で、多様な性的指向（好きになる性）や性自認（心の性）を表す性的マイノリティの総称。
- ＊3 **ウェルビーイング** 心も体も、そして社会とのつながり（環境）も、すべてが良好で満たされ、持続的に幸せに生きられている状態（幸福・健やかさ）を指す考え方。
- ＊4 **4・3・2 制（学年編成）** 義務教育 9 年間の一貫した教育目標のもと、子どもの成長や思春期の特性に合わせて「4 年・3 年・2 年」のステージに区分する柔軟な学年編成。
- ＊5 **教科担任制（きょうかたんにんせい）** 教科ごとに専門の先生が授業を行う仕組み。小学校段階から柔軟に取り入れることで、たくさんの先生の手で子どもたちを見守り、一人ひとりの良さや困りごとに気づきやすくなる。
- ＊6 **真鶴町学び共創室（Manazuru Education Commons）** 2030 年の義務教育学校開校に向け、教育委員会内に新設された学校教育の専門伴走組織。教員経験のあるスタッフが学校の「伴走者」として寄り添い、家庭・学校・地域と連携しながら、真鶴の新しい学校づくりと未来のカリキュラム開発を行う。